

生涯学習の構築において、臨床技能の習得を骨格に据えることはきわめて重要である。理学療法におけるハンズオン、ハンズオフのスキルをいかに習得・向上していくのかについて多様なキャリアデザインを踏まえて考える機会とした。

### ■理学療法士に必要な臨床技能と人財育成(黒澤和生論文)

理学療法の対象の変化と守備範囲の拡大について言及し、現状の教育手法を振り返り、理学療法士に必要とされるコンピテンシーの視点から、理学療法士に必要とされる能力について一つの提案を行った(理学療法士に必要な3つの能力)。また、キャリアラダー(イメージ)および資格取得後の基本的臨床技能の習得を目標とする新人理学療法士研修についても触れた。

### ■理学療法士に必要な臨床技能としてのハンズオンスキルと現任研修(山内正雄論文)

理学療法士は徒手で行う治療が中心となるため、徒手による技術を身につけることが必須である。しかし、理学療法士は人間を相手にするため、理学療法技術の習得は非常に難しいと言われている。徒手理学療法においては、大学院教育を中心とした教育者の技術指導方法を、世界的規模で統一しようと討論されている。そこで今回、徒手理学療法を中心に、理学療法技術の指導方法について紹介する。

### ■理学療法士に必要な臨床技能としてのハンズオフスキルと現任研修(高村浩司論文)

臨床推論過程に必要なハンズオフスキルは、知識や技能の成熟と無関係ではなくハンズオンスキルがベースとして必要な能力である。理学療法士に必要なコミュニケーション行動の重要性に基づき、ハンズオンからハンズオフスキルへ至る過程の取得とその向上に必要と思われる条件ならびに現任研修への流れについて述べる。

### ■臨床技能の習得に必要な現任研修の実情と展望

#### 1. 訪問リハビリテーションに必要な臨床技能(塚田鉄平, 他論文)

訪問リハビリテーションの現場において、利用者の急変や体調不良に出会うことは少なくない。利用者の生活全般を捉え、利用者の症状の変化に気づき、安全に理学療法を提供するための視点とフィジカルアセスメントを含めた技術の重要性を述べる。また、症例を通じて効果的な理学療法を提供するために地域医療にかかわる多職種との連携を含め、訪問リハビリテーションにおいて理学療法士が果たすべき役割について考えてみたい。最後に、支部活動を通じて行っている、理学療法士間の連携の取り組みについて述べる。

#### 2. 発達障害領域に必要な臨床技能の考え方(清宮清美論文)

発達障害領域においては、①正常運動発達に即して機能向上ができる専門的な知識、技能を習得する、②社会的基盤を含めた環境の変化を広域的に捉え、対象者や家族に指導する、③家族の理解と協力を得て、日常と連続した理学療法を実施する、④対象者の能力を最大限に引き出し実用化する、これらが必要な臨床技能であると考えられる。その習得のためには、生活や家族とのかかわりを重視して柔軟な姿勢で研修に臨んでほしい。

#### 3. 外来の理学療法に求められるもの(伊能幸雄論文)

当院外来には、スポーツ傷害を含めた運動器疾患の他、脳血管疾患、内部障害等の患者、また、単一疾患から複合疾患まで多様な患者が訪れる。本稿では、そのような状況でスポーツ傷害をはじめ外来理学療法士に求められるものとは何か、そして、当院で行っている組織内キャリア発達のための取り組み(ローテーション制度、臨床で求められるものをリスト化したスキルチェック表、知識・技術の獲得とその確認まで含めた勉強会)を紹介する。

#### 4. 増加する理学療法への対応と質の担保(奥山夕子論文)

回復期領域の理学療法士の需要は今後も高まることが予想される。セラピストの臨床技能を保証するための方策として、実践の場での教育体制を整備すること、身につけるべき技能を明文化すること、客観的な評価を受けることを提案する。その術として、客観的臨床能力試験(objective structured

clinical examination : OSCE), mini-Clinical Evaluation Exercise (mini-CEX)を紹介する。

#### **5. 内部障害領域—小規模スタッフにおける実情を中心に(野添匡史論文)**

内部障害領域における現任研修の基本は、的確な病状・病態把握である。そのためには、他職種と情報を共有し、治療方針を統一しておくことが非常に重要である。また、小規模スタッフにおける現任研修では、on the job training(OJT)を基本とし、全スタッフが常に研鑽を積み続ける状況をつくることが重要となる。

#### **6. 地方自治体に必要な臨床技能(岡本慎哉論文)**

地域・行政で働く理学療法士の臨床技能として、「医学的健康管理能力」と「予後予測能力」、「リハビリテーション知識に基づく事業の企画力」が重要である。総合事業を実施する市町村が理学療法士に期待する役割—「要支援認定者の自立促進」、「介護予防と自立支援のための事業の企画」—を実行するために、この3つの臨床技能が必要である。しかし、これを習得するための研修制度は未整備である。今後、行政と医療・福祉施設の理学療法士がともに「地域活動に必要な臨床技能」を習得するための仕組みが必要であろう。

#### **7. リハビリテーション部門マネジメントに必要な臨床技能(八木麻衣子論文)**

医療機関や介護施設での組織マネジメントで大切な臨床技能を紹介する。最も基本的な臨床技能は、PDCA(Plan, Do, Check, Action)サイクルを管理する能力である。また、物事の相互関連性を捉えるための知覚能力である「システム思考」を用いることや、組織の記憶力に重要とされる「トランザクティブメモリー」を向上するために、組織全体の「知識のハブ」として機能する能力などが重要である。